備前市事務事業評価シート

（平成23年度事業）

事業の概要					
事業開始年度	平成１１年度～		根拠法令・例規等	備前市障害者地域活動支援センター設置条例	
総合計画 大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室）	窓口管理課（吉永）
総合計画 中項目	基本施策	01	やさしさあふれるまちづくり	職・氏名	課長代理　田渕　美保子
総合計画 小項目	施策	03	障害者（児）福祉	電話	84-2512
事務事業名		05	在宅心身障害児（者）自立促進事業	このシート作成に要した時間	4.0　時間

Plan

事業の目的	
対象（誰・何に対して）	吉永地域の心身障害者（児）
目的（何のために）	心身障害者（児）の社会参加を促進し、働くことの喜びを実感してもらい、生きがいをもって生活できる社会の構築を目指す。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	在宅の障害者で作業能力はあるものの対人関係、健康管理等の事由により一般企業等に雇用されることが困難な者に作業訓練及び生活訓練を行い、社会的就労の場の拡大を図るとともに社会的自立を促進する。

Do

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
ゆずりは作業所運営事業	備前市障害者地域活動支援センターゆずりは運営委員会を指定管理者として運営を委託することにより、在宅の障害者で作業能力はあるものの対人関係、健康管理の理由により一般企業等に雇用されるのが困難な者に作業訓練及び生活訓練を行い、福祉的就労の場の拡大を図るとともに社会的自立を促進する。	◎

目的を達成するため実施した事業

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円	3,301	3,301	3,301
事業費	必要人員 人件費	千円	0.80人 85	0.10人 100	0.03人 238
事業費	事業費計	千円	3,386	3,401	3,539
決算額 財源	国県支出金	千円			
決算額 財源	受益者負担	千円			
決算額 財源	繰入金	千円			
決算額 財源	市債	千円			
決算額 財源	その他（　）	千円	1	1	1
決算額 財源	一般財源	千円	3,385	3,400	3,538
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
説明	ゆずりは通所者数			
結果指標量	人	8	9	12
対前年比	%	88.9%	112.5%	133.3%
活動コスト	円	3,386,290	3,401,298	3,539,298
単位当たりコスト	円	423,286	377,922	294,942

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果					
成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
センター利用率	目標値（A）	12	12	12	12
	実績値（B）	8	9	12	到達目標値
	達成率（B/A）	66.67%	75.00%	100.00%	100

成果指標設定の考え方・式や説明

センター通所者数/定員　（12名）

Check

事務事業の評価　該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

			妥当性評価
妥当性の評価	市の関与の妥当性 必要性	■ 市が実施するよう法令で義務づけられている	A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い
		□ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
		□ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	
		□ 事業の内容が一部の受益者に偏っている	
		■ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
		□ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
		□ 事業開始当初の目的から変化してきている	
		□ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	
		□ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	B
	市民ニーズ	□ 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト手段	□ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している	効率性評価
		□ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある	A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い
		□ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	
		■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	
		□ 受益者負担率は適正である	
		□ 受益者負担率を見直す余地がある	
		□ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
		□ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	B
		□ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	目的達成度 市民参画度	□ 成果指標の設定は適切である	有効性評価
		■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである	A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い
		□ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している	
		□ 成果指標達成率は80%未満となっている	
		□ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
		□ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい	
		□ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	B
		■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

進行年度（H24年度）の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
説明	事業内容については、例年と同様である。なお、通所者数は若干増加しているようなので更に努力をしてほしい。						

総合評価		
吉永地域唯一の地域生活支援事業の地域活動支援センターとして、通所者及びその家族などにとってはなくてはならない施設である。ノーマライゼーションの観点からも現運営委員会が管理運営に名乗りをあげてくる限り、例え現状維持のままでも開所していかなければならないと考える。運営的には、作業所発足の原点に立ち戻り、通所しやすい作業所づくりに努めなければならないと考える。	総合評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い	B

Action

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
取組目標	通所者の増加を図る努力をする。						